

令和2年度NPO活動推進補助金 活動報告書

事業名	遠隔(リモート)授業を取り入れた新しい子どもの居場所事業
団体名	特定非営利活動法人山王学舎
法人設立年月	平成30年4月6日
団体の目的	この法人は、社会の中で生きにくさを抱えている家庭や、経済的な困難を抱えている家庭の子ども達に対して、地域で包括的擁護を行う為に、美術造形の文化教育を核とした居場所づくりと学習支援を展開する。親の貧困や経済的な面によって生じる教育格差や貧困の世代間格差を解消すると共に、障がいを抱えた子どもと一緒に学ぶインクルーシブ教育を実践する。活動を全国に発信し、問題解決の為の取り組みを広めることを目的とする。
主な活動	<p>(1) 特定非営利活動に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 経済的な困難を抱える家庭の子どもや地域の子どもを対象とした総合的学習支援事業</li> <li>② 経済的な困難を抱える家庭の子どもや地域の子どもを対象とした美術造形活動事業</li> <li>③ ひとり親世帯や共働き世帯の子どもを対象とした見守り居場所事業</li> <li>④ 障がいを抱えた子どもと一緒に学ぶインクルーシブ教育事業</li> <li>⑤ 上記各号の子ども達を対象とした子ども食堂事業</li> <li>⑥ 子どもの貧困やインクルーシブ教育に関する講演・イベントの企画・運営事業</li> <li>⑦ 子育て・子育ての親子の情報交換交流事業</li> <li>⑧ その他目的を達成するために必要な事業</li> </ul> <p>(2) その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飲食事業</li> <li>② 物販事業</li> <li>③ 出版事業</li> </ul>

(事業を実施した背景、事業内容、成果、次年度以降の展望)

新型コロナウイルスの拡大影響により、福岡県も緊急事態宣言が発出され、3月初めから5月一杯までの小中学校が休校となり、地域の子も達は、この環境下の中、外出自粛を中心に自宅学習を行い、出来るだけ少人数の参加で、山王学舎の居場所環境に集っています。

しかし受益者(子ども達)の多くは、保護者が働かないといけないひとり親や共働きの為、自宅に子ども達だけで過ごすことが多く、この環境下に強いストレスを抱えています。そのような子ども達を対象に、学習習慣のリズム化と、他の子ども達との触れ合える環境創出を図りました。具体的には、WEB会議システムを子ども達が居る家庭と山王学舎の学習環境に導入します。システムを活用し、デジタルデバイスがないご家庭には、山王学舎からタブレットを貸し出し(最大6台・今後増設予定)、山王学舎講師とWEB会議を通じ、孤立しながら自宅で学んだり遊んだりする子ども達がWEBを通じて、

○朝・夕のホームルーム

○本日の学習目標の設定

○eラーニングの学習(小学4年～中学3年)

○動画による学習・自宅でもできる美術制作

○個別の相談会や子どもたち同士の交流会

上記のような遠隔学習による学習や生活の習慣化を図ります。遠隔授業を取り入れることで、子ども達の自宅における生活習慣のリズム化が図られ、ストレスの軽減につながります。何より非接触ですが、人とのつながりを日常の中にもたやすことは子どもの健全育成にとって重要だと考えます。そして今後緩やかに感染症対策の中、再開する通常生活は、学校生活に加えて遠隔授業なども取り入れた新しい生活習慣になっていくと考えます。そのような新生活様式にソフトランディングする試みです。

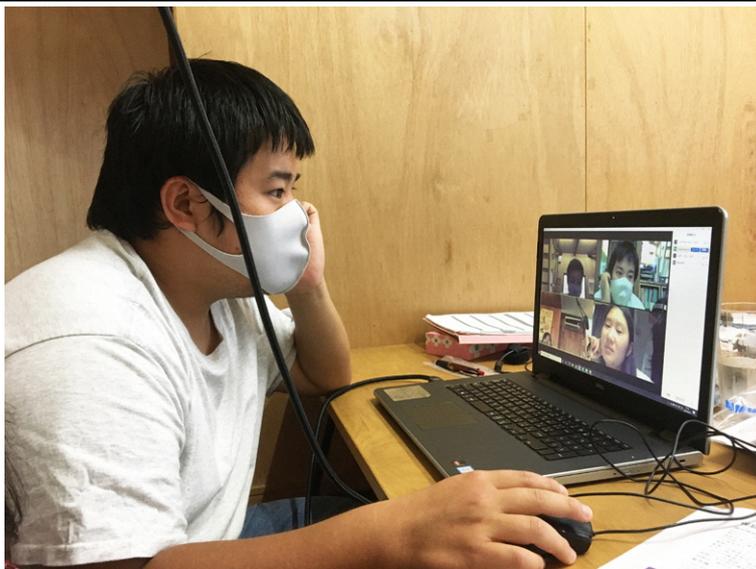
補助事業  
の概要

#### WEB会議活用による子ども達への学活及び学習・美術工作

・自粛要請中は、朝夕のホームルームとしてWEB会議にて全員参加型ホームルームを行う。出席やミーティング、本日の目当てやおしゃべり休憩時間を取り入れ。またZOOMを活用し、自宅と山王学舎双方向による学習のサポート、美術造形制作のサポートを実施した。

参加：月曜日から金曜日延べ約400名





### 映像コンテンツによる美術造形制作や学習以外の課題制作と発表

・画像・編集の専門家(写真家)によるYouTube編集を行い、美術制作や自由研究制作動画映像を山王学舎講師及び外部講師が動画教材として、子ども達のリモート学習の一環として取り入れ  
20本の動画作成：動画視聴数 延べ約1000名視聴



### 山王学舎に来所している子ども達とのリモート交流会

・家庭の方針でまだ外出できない子、山王学舎に来所している居場所の子どもと、家庭で過ごしている中学生及び小学生(学校が休校及び新型コロナウイルスの影響により学校に通うことが出来ない子ども)のリモート交流会

参加数：週末土曜日開催1日6～10名 延べ約200名



福岡県でもコロナ感染症感染拡大と収束の波があり、その動向に翻弄された一年でした。事業を通じて、コロナ感染拡大中の時も自宅で子ども達が山王学舎の先生たちと放課後学びを進めるように、遠隔(リモート)設備を整えることで今後の感染爆発にも地域の子も達が自宅待機になっても交流やコミュニケーションが取れるように山王学舎にリモート環境設備整備を行うことが出来ました。

特に事業が始まったばかりの時期ではコロナ禍で不安を抱えた子ども達が、リモートによって、出来るだけ普通の学習に近い状況、そして周囲のサポートとコミュニケーションがとれると分かった安心感は大きい成果でした。遠隔事業設備によって学習面のサポートや子ども個人個人へのケアはより多くの時間が割け、学習面の進捗も見ることが出来ました。美術造形においても個人個人のアイデアや成果がはっきりと作品や成果物に見ることが出来ました。

講師陣も改めて事業を通じて全員がZOOMシステムに慣れていき、これからも続くと予想されるコロナ禍に備えることが出来ました。動画作成を実施することで、事前にミーティングを行い、子ども達が今欲していること、先生たちが子ども達に見せたいこと、動画での約束やルール作りを丁寧に共有しました。そして動画への反応など子ども達からのブラッシュアップなど、新しいコンテンツによって子ども達と講師陣のコミュニケーションがより大きく育つことになりました。

本事業では緊急事態宣言や、学校の休校措置等子ども達の学びや体験の場が少なくなったことを受けて実施している事業でした。しかし事業実施するころには感染拡大も収束をはじめ、学校にも通える状況にもあり本事業への参加や意義は薄れていました。そしてコロナ感染拡大が進み始めたときに再度問い合わせや、使ってみようといった家庭が増加し始めました。

しかし、学びや体験のツール・デバイスとして遠隔授業・サポートは子ども達にも有用で楽しく学べるものと分かってからは、山王学舎にも通ったり、自宅でも学習したりと、「学びのサポート」部分に脚光が当たったように思います。

デバイスとして山王学舎は貸与できるタブレットが多くあったのはとても良かったと思います。山王学舎を利用している家庭の中には、子ども個人個人に渡せるタブレットは多くなく、十分に子ども達のデバイスやオンラインの学びへの習熟に繋がらない恐れがありました。その反面、家庭でのデバイスの扱いについてルール作りも整備しないといけないと感じています。

	<p>今回の事業はコロナ緊急事業枠ということもあり、私たち山王学舎も毎年の継続や拡大していく事業ということではなく、緊急避難的に子ども達の学びや居場所を止めない考えで事業実施を行いました。</p> <p>しかしながら2021年度に入ってもコロナ感染症拡大は第4波、そしてさらなる拡大を見せつつあります。そうした中子ども達の学校生活や学び、体験、居場所はどのようになるか予想もつきません。そうした中、山王学舎が本事業において遠隔(リモート)授業を実施できる体制や、遠隔の中で子ども達とコミュニケーションをとっていくシステムを構築できたことは非常に大きい成果でした。</p> <p>今後も自主事業の中で、コロナ禍を見据えながら対面重視や時にはリモートで感染予防に努めたりと、子どもの学びや居場所の一形態としてデバイスやツールを使いながら子ども達のサポートを実施します。</p>
--	--

補足(1)上記項目を満たしていれば、本様式以外を使用しても構いません。別紙記載例を参照してください。パワーポイント等で作成される場合は、10ページ以内とします。

(2)活動写真を2、3枚程度添付してください。

(3)この報告書は、市ホームページに掲載するとともに、寄付者に送付している活動報告書を作成する際に活用させていただきます。